

選択肢別回答数

市役所公開模試（専門あり）

教養択一試験

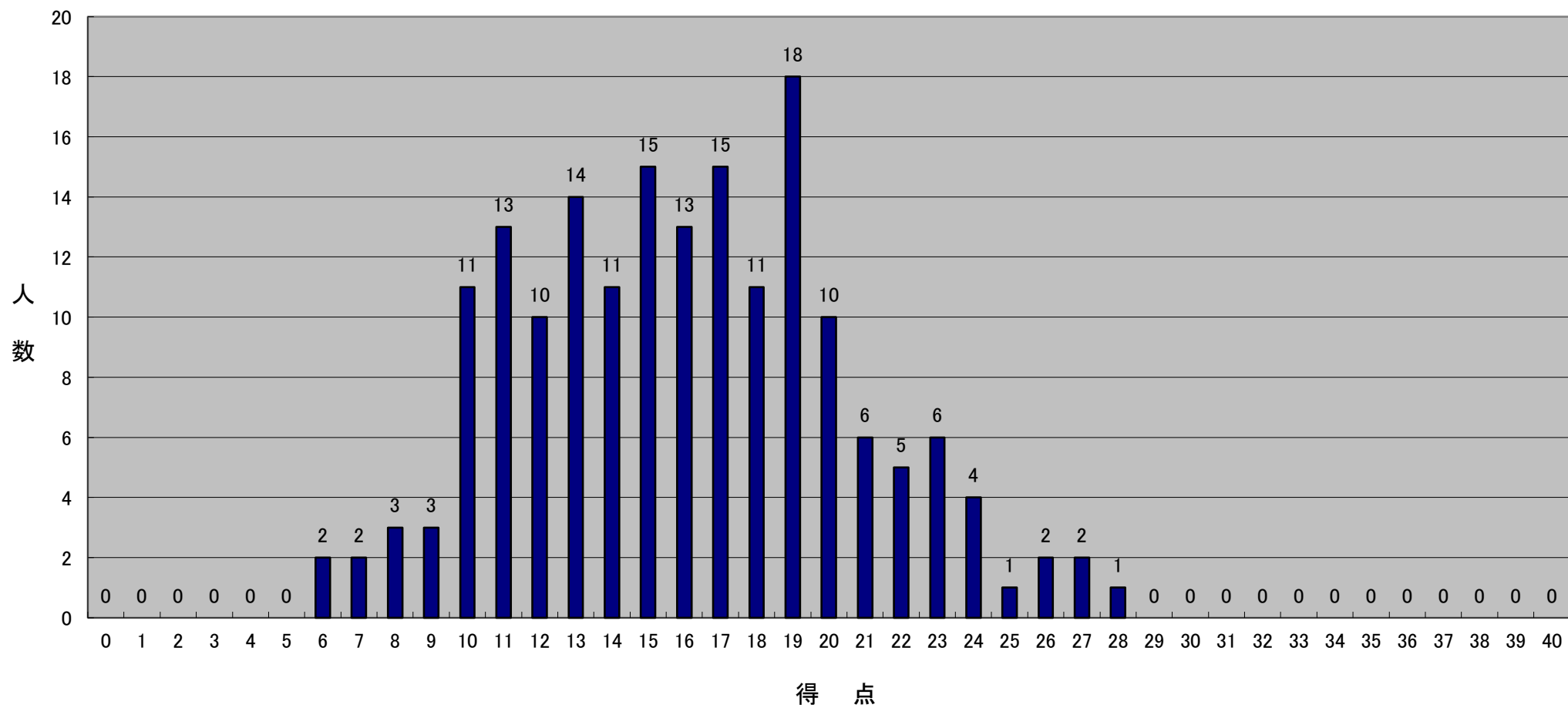
総受験者数

178

2012年08月05日 実施

[illegible][illegible]

得点分布グラフ



上位者ランキング

順位	会員番号	受験番号	得点	受験地
1	9300002001	-	28	筑波大学
2	0100120435	-	27	津田沼
2	0103958002	-	27	自宅
4	0100294428	-	26	立川
4	9103133212	-	26	沖縄(那覇)
6	0107402512	-	25	沖縄(中部)
7	0101485317	-	24	梅田
7	0107773212	-	24	沖縄(那覇)
7	9100901307	-	24	池袋
7	9103134912	-	24	沖縄(那覇)
11	0100059638	-	23	立川
11	0100415328	-	23	新宿
11	0105950512	-	23	沖縄(那覇)
11	0106297112	-	23	沖縄(那覇)
11	0107306512	-	23	沖縄(中部)
11	0107915112	-	23	徳島
17	0101042713	-	22	自宅
17	0102994805	-	22	池袋
17	0107335812	-	22	沖縄(那覇)
17	0107342812	-	22	沖縄(那覇)
17	9100094135	-	22	津田沼

選択肢別回答数

市役所公開模試（専門あり）

專門一試験

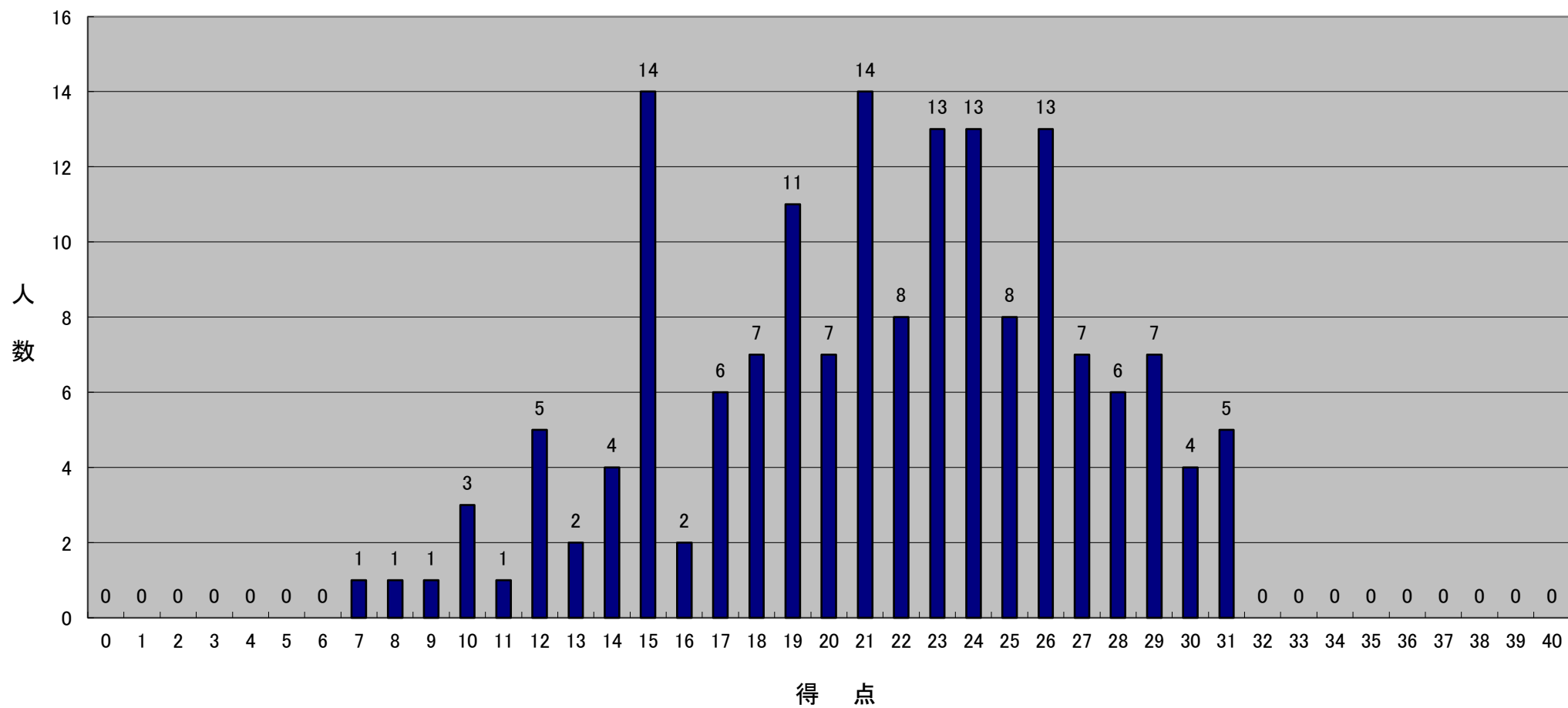
総受験者数

163

2012年08月05日 实施

[illegible][illegible]

得点分布グラフ



上位者ランキング

順位	会員番号	受験番号	得点	受験地
1	0101042713	-	31	自宅
1	0106791112	-	31	沖縄(中部)
1	0107335812	-	31	沖縄(那覇)
1	0107342812	-	31	沖縄(那覇)
1	0107915112	-	31	徳島
6	0100059638	-	30	立川
6	0100367828	-	30	立川
6	0103980304	-	30	新宿
6	0107864012	-	30	徳島
10	0102424405	-	29	沖縄(那覇)
10	0107345512	-	29	沖縄(那覇)
10	0107764312	-	29	沖縄(那覇)
10	0107814812	-	29	沖縄(那覇)
10	0107883212	-	29	沖縄(那覇)
10	9103133212	-	29	沖縄(那覇)
10	9300002001	-	29	筑波大学
17	0103435412	-	28	徳島
17	0105898012	-	28	新宿
17	0107014012	-	28	沖縄(那覇)
17	0107240112	-	28	沖縄(中部)
17	0107323612	-	28	沖縄(那覇)
17	0107809712	-	28	沖縄(那覇)

TAC公務員講座 秋試験向け公開模試（市役所：専門あり） 講評

I. 教養択一試験

- 1. 文章理解** 市役所試験の文章理解は難易度も高くないので、できれば全問正答しておきたい。趣旨把握問題は、端的に言う「何の話か」ということがわかればよいので、現代文でも英文でも筆者が何について論じようとしているのか、まとめながら読むとよい。
- 2. 数的処理** 本模試は、やや難易度を低めに設定した。判断推理では、【No.9】（ベン図）は平易である。苦手な人の多い分野だが、基本的な問題だけでも正解したい。【No.10】（うそつき）は、出題頻度の高い分野である。本問は平易なので、不正解だった人は、解説を読んで理解してもらいたい。空間把握では、【No.13】（サイコロ）、【No.14】（折り紙）は平易である。【No.12】（立体の切断）は難解であるが、出題頻度は高い。解法だけでも理解してもらいたい。数的推理は、時間のかかる問題を多く出題した。【No.15】（速さ）、【No.18】（食塩水）は難解であるが、【No.17】（時計算）、【No.19】（三平方の定理）は、時間はかかるが平易である。時間配分を考慮した対策も必要であろう。【No.20】（資料解釈）は難解である。分数の比較法をしっかりと復習してほしい。以上の点を踏まえると、13 問中 7 問以上正解できれば、合格レベルと考えてよい。
- 3. 社会科学** 法学分野は例年人権および統治で 2 問出題されており、難易度も基本的な判例の見解を問うている。近年は「新しい人権」が他の試験種でも頻出傾向なので、本模試以外のチェック項目として学習しておくとうまいだろう。政治社会分野は政治制度・選挙制度・国際事情が頻出である。また、経済分野は例年 3 題出題されており、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的な理論から金融政策が頻出である。ただいずれも基本的な内容が大半を占めるので、社会科学の出題全体でみると 6 割は正解が見込める。
- 4. 人文科学** 世界史の戦間期は頻出の時代といえる。また、他の試験種と比べて第二次世界大戦後の現代世界からの出題が多いのも特徴である。日本史は中世から近世の出題が多く、その内容も政治制度から外交・文化まで多岐わたる。地理は自然地理が頻出であるので、本模試では地形を出題した。また、農業も頻出であり、気候区分と関連させて整理するとよいだろう。
- 5. 自然科学** いずれも基本的な問題である。【No.35】は微分を用いた最大値を問題であるが、二次関数を用いた最大値、最小値の出し方も確認しておいてもらいたい。また、【No.36】のような、等加速度運動を用いた問題は頻出であるので、正答を得ることができなかった者は復習をしておいてもらいたい。できれば全問正解を目指してもらいたい。

II. 専門択一試験

- 1. 政治系 政治学**では、【No. 1】のコーンハウザーの社会類型は、頻出でかつ「組み合わせ」による出題なので、是非正解したい問題である【No. 2】のアメリカとイギリスの制度については、本年ロンドンで五輪があり、かつアメリカ大統領選挙も実施されるため注目度が高い。本試験までには復習しておくことが望ましい。**行政学**では、【No. 3】の PPBS については、誰が導入したかを知っておくことが重要である。この際、ケネディ（およびマクナマラ）とジョンソンの違いが重要になるが、ケネディらは国防総省に、ジョンソンは全省庁にそれぞれで PPBS を導入したことを承知しておけば正解できるはずである【No. 4】の地方公共団体については、近年の地方分権論議の流行もあるため、どのような団体が設置され、どんな権限を持つことができるのかを図式的に知っておくことがのぞましい。**社会政策**の【No. 36】はやや細かいが、基本的な労働事情の傾向を理解していれば解答できるだろう。【No. 37】は近年、話題に上ることが多い生活保護に関する出題である。この機会に解説をよく読んで学習しておこう。【No. 38】の育児休業制度もやや細かいが、雇用保険と合わせて理解しておこう。**国際関係**では、【No. 39】のブレトン・ウッズ体制については、以降に続くニクソンショック（ドルショック）、スミソニアン体制、キングストン体制といった経済体制移行の歴史と関連付けて学習しておくことが望ましい【No. 40】の国際法については、最近のわが国の領土問題と関連のある「海洋法」関連の話題は、とくに要注意である。また肢文にはないが、国際司法裁判所や国際刑事裁判所の権限や役割なども押さえておきたいテーマである。

2. 法律系 本模試は概ね基本テーマを中心に出题されている。そこで、正答率が高い問題（特に 65%以上の問題）を目途

2. 法律系

本模試は概ね基本テーマを中心に出题されている。そこで、正答率が高い問題（特に 65% 以上の問題）を目標に基本事項を再度確認してほしい。今年度の本試験でも基本的問題を確実に取れたかが合否のポイントとなっているからである。本模試を契機に今まで受験した本試験の問題についても必ず復習することが大切である。また、今回の得点ラインであるが、法律科目については計 17 問のうち 6 割以上の 11 問程度をできれば正解したい。以下各科目についてコメントしていく。

憲法については、人権は基本判例、統治は手続きに関する基本条文（衆議院の優越、解散等）を再度確認しておくこと。表現の自由に関する【No.6】は博多駅事件、北方ジャーナル事件の基本判例を確認しておくこと。財政に関する【No.7】は予算の法的性質、パチンコ球遊器事件等を確認することがポイントである。司法権の限界に関する【No.8】については富山大学事件、共産党袴田事件、砂川事件等の基本判例を押さえること。

行政法は、全般的に憲法人権と同様に判例が問われることが多いので、今回出題された判例を中心に復習してほしい。特に行政事件訴訟法は例年どおり、各種の本試験で問われている。行政指導に関する【No.9】については、品川マンション事件、武蔵野マンション事件等の基本判例を中心に整理しておくこと。損失補償に関する【No.12】については、モービル石油事件、農地改革事件、奈良県ため池条例事件、名取川事件等の基本判例を押さえておくこと。原告適格に関する【No.13】については新潟空港事件、もんじゅ訴訟等の判例を押さえつつ近時の小田急訴訟も押さえること。

民法は、代理に関する総合問題である【No.14】については、具体的事例を通して代理の基本的テーマをおさえること。質権に関する【No.15】については質権の特殊性を押さえること。頻出テーマである債権譲渡に関する【No.16】は対抗要件、判例の準則を中心に確認しておくことである。不当利得に関する【No.17】については、要件・効果を再度確認しておくこと。不法原因給付は比較的出題されている。

刑法は、総論から頻出テーマである共犯と、財産犯から詐欺罪に関する出題である。共犯に関しては共同正犯の基本判例を再度確認すること。【No.19】の詐欺罪についても出題された基本判例を確認しておくこと。

労働法は本試験では比較的得点しやすい科目といわれている。労働契約に関する【No.20】については基本事項を再度確認しておくこと。また、不当労働行為については各類型を再度確認しておくこと。

3. 経済系 **経済原論**については、概ね基本レベルの内容を出題しているので、おおよそ 8 割程の得点を目指してほしい。

【No.22】の利潤最大化に関する計算問題は、平均費用から総費用関数が導出できれば問題なく得点できたであろう。【No.23】の二要素生産関数の計算問題は、多くの受験生が苦手意識を持っているが、パターン化できるので慣れてほしい。【No.24】の効用最大化の計算問題は、公式を用いて解くことのできる問題なので確実に得点してほしい。【No.25】の需要の所得弾力性と財の分類は、教養択一試験でも出題されるほど頻出な内容であるため、必ずフォローしておきたい。【No.26】の市場均衡における需要の価格弾力性の計算問題は、需要曲線と供給曲線を図示してから計算し始めると容易に求めることができる。【No.27】のパレート最適の問題は、図がしっかりイメージできているかが解答の鍵を握る。【No.28】の国民経済計算の理論問題は、教養択一試験でも出題されるほど頻出な内容であるため必ずフォローしておきたい。【No.29】の財市場分析の計算問題は、基本的なレベルであることから取りこぼしがないようにしたい。【No.30】の貨幣需要と貨幣供給の理論問題は、LM 曲線と貨幣需要の所得弾力性や貨幣需要の利子弾力性との関係性をいかに整理できているかがポイントとなる。【No.31】の IS-LM 分析の政策の効果に関する問題は、財政政策や金融政策による動きをしっかりと覚えておけば確実に得点できる。【No.32】の IS-LM 分析の計算問題は、IS 曲線や LM 曲線を定式化することができれば解答することができる。頻出テーマなのでしっかり得点したい。**財政学**については、【No.33】のわが国の予算制度に関する問題は、財政制度の基本的な内容を問うものであり、教養択一試験でも出題されるほど頻出な内容であるため必ずフォローしておきたい。【No.34】の法人所得課税に関する問題は、少し難しいと感じたかもしれないが、時事的なことも考慮にするとしっかりフォローしておきたい。【No.35】のローレンツ曲線の図解問題は、図の見方を理解さえできれば解答できるはずである。

III. 論文試驗

市役所の論文試験は自治体によってさまざまであるが、最も多いのは、受験する地域の活性化について論じさせる課題である。財政状況も厳しい中、それぞれの地域が住民に住み続けてもらえるような取り組みを推し進めている。面接でも聞われる内容なので、これからなにをしていかなければならないか、具体的に述べられるように準備しておきたい。

以上

◆ TAC公務員講座 秋試験向け公開模試 結果データ ◆

【市役所：専門あり】

	平均点	受験者数	科 目	問題番号	科目平均点
教養択一	16.0点	178名	文章理解	1～7	3.5点
			数的処理	8～20	4.7点
			社会科学	21～27	3.4点
			人文科学	28～34	2.0点
			自然科学	35～40	2.4点
専門択一	21.4点	163名	法律系	5～21	8.2点
			経済系	22～35	8.5点
			政治系	1～4 36～40	4.6点
小論文	※平均点は 算出しておりません。	160名	—	—	—
総合成績	35.52点	178名	—	—	—